

渋谷ファッション＆アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	美術表現科	共通授業	2026年度	前期

履修区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	共通授業① 人体(部分の構成)	実習	木村繁之 永井俊一

授業の到達目標 (目標とする検定)	デッサン道具の使い方とデッサンの基本的な知識・手順を学ぶ。 人体の各部を様々な角度から観察して描写する。 絵画の画面構成について意識を高める。
----------------------	--

授業の内容	期間:4/27～4/28 AM・PM 計4コマ 共通授業の前半は「人体」をテーマとした課題を制作します。 この課題では、最も身近なモチーフである「自分の顔や体の部分」を良く観察して描きます。 ①クロッキー、スケッチ、ドローイング 人の体は、どの部分もとても複雑でユニークな形をしています。 まずは自身の顔の部分や手、足などを様々な角度からクロッキー帳にたくさんスケッチをします。 ②画面構成 何点かのスケッチを基にそれらを1枚の用紙(木炭紙または画用紙)に、組み合わせます。 その際に全体の構図を考えて画面を構成します(各部分の大きさ・比率は自由) ③描画 画面全体のバランス、明暗の分布などを考えながら1枚の絵として描きます。
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
3	4/27AM 前提講義、制作、4/28PM 講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

授業持ち物 授業内で説明します ・デッサン用具一式 ・木炭紙大カルトン ・木炭紙/画用紙は学校から支給します	学校で準備する教材など ・鏡 ・木炭紙/木炭紙サイズの画用紙 ・木炭紙大の画板 ・人体骨格見本・解剖図 ・木炭紙下敷き
配付資料	

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	美術表現科	共通授業	2026年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	共通授業② 人体(全身)	実習	武井好之

授業の到達目標 (目標とする検定)	「人体(全身)」の基本的なプロポーションを理解し、構造的に表現する。
----------------------	------------------------------------

授業の内容	期間:グループA: 5/11～5/12 AM・PM 計4コマ、 グループB: 5/13～5/14 AM・PM 計4コマ ※グループA/B どちらの日程になるかは、こちらで調整いたします。 人体の全身をバランスよく、大きく、且つ画面からはみ出さないようにするには、モデルをよく観察して全身のプロポーションを確認する事が大切です。 観察と描写を繰り返すことで、機能的な美しさを発見する事でしょう。 肌の質感、光と影にも注意して存在感のあるデッサンを制作します。 授業の中では固定デッサンの前にクロッキーを制作します。 クロッキーは5分や10分など短い時間で対象物を描くことで、全体の構造や動きをとらえる訓練になります。大きなサイズのクロッキー帳を用意しましょう。 【モデル授業の注意事項(学校より)】 ポーズの始まりと終わりには挨拶をしましょう。原則としてモデルさんには話しかけないこと。写真撮影は禁止です。携帯・スマートフォンはカバンの中にしまっておきましょう。 室温はモデルさんを基準に設定します。
-------	---

週	授業計画 及び 学習の内容
4	グループA: 5/11AM 前提講義～クロッキー・デッサン制作、5/12PM 講評 グループB: 5/13AM 前提講義～クロッキー・デッサン制作、5/14PM 講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経歴(企業や団体での実務経歴)
Webポータル参照

授業持ち物 ・B4(またはF4号)より大きいサイズのクロッキー帳 ・デッサン用具一式 ・木炭紙大カルトン ・木炭紙は学校から支給します	学校で準備する教材など ・モデル(女性・ヌード) モデル台 ・木炭紙 ・木炭紙大の画板 ・木炭デッサンお手本 ・人体骨格見本・解剖図 ・木炭紙大のクロッキー帳 (デモンストレーション用)
--	---

配付資料

渋谷ファッション＆アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	美術表現科	共通授業	2026年度	前期

履修区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	共通授業③ 塑像	実習	工藤里紗

授業の到達目標 (目標とする検定)	粘土に手で触れながら塑像をつくる体験を通して、対象物の量感や質感を理解する。
----------------------	--

授業の内容	期間:グループA: 5/13～5/14 AM・PM 計4コマ グループB: 5/11～5/12 AM・PM 計4コマ ※グループA/B どちらの日程になるかは、こちらで調整いたします。 頭蓋骨の模型をモチーフに、人物の頭部を構造体として捉えて粘土で制作する。 顔の正面だけではなく奥行や側面などを意識する事。 自分の手で直接粘土に「触れる」という体験を通して、対象物を視覚的に捉えるだけではなく、 対象の量感や質感を感じながら見ることを学ぶ。
-------	---

週	授業計画 及び 学習の内容
4	グループA: 5/13AM 前提講義、制作、5/14PM 講評 グループB: 5/11AM 前提講義、制作、5/12PM 講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

授業持ち物 ・作業着 ・不要な布(不要なTシャツやタオルなどでも可) ※粘土が乾かないよう途中の作品に巻いておくため ・クロッキー帳、描画道具 ・粘土べら(持っている方は持参してください)	学校で準備する教材など ・頭蓋骨模型 ・牛骨モチーフ ・粘土 ・塑像板、 ・ゴミ袋(人数分) ・粘土べら
配付資料	

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	美術表現科	共通授業	2026年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	共通授業④ 色彩構成	実習	永井俊一

授業の到達目標 (目標とする検定)	「色彩」についての基本的な知識を学ぶ。 それぞれの色が持つ特性を理解し、効果的な色面を構成する方法を学ぶ。
----------------------	--

授業の内容	期間:グループA: 5/18～5/19 AM・PM 計4コマ グループB: 5/20～5/21 AM・PM 計4コマ ※グループA/B どちらの日程になるかは、こちらで調整いたします。 1日目は、色の三属性(色相・明度・彩度)に関する講義と演習で色彩の知識を身につける。 2日目は、色彩の知識を活かして1枚の作品を制作する。
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
5	グループA: 5/18～5/19AM・PM 色彩に関する講義と演習 5/19PM 講評、 グループB: 5/20～5/21AM・PM 色彩に関する講義と演習 5/21PM 講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

授業持ち物 ・スケッチブック、はさみ、カッター、のり、定規 ・筆、パレット、筆洗 ・色の画材 (色鉛筆 カラーペン、クレヨン、水彩絵具 水彩筆など 持っているもので良いです) ※アクリルガッシュは学校教材としても若干用意いたしますが、今後使用する方は個人購入をお勧めします ・画用紙は学校から支給します ※授業内で画用紙をパネルに水張りする指導をします	学校で準備する教材など ・木炭紙サイズの画用紙 ・木炭紙大パネル(人数分) ・アクリルガッシュ、筆 ・トータルカラー、課題用紙、 ・カッターマット ・モニター ・水張りテープと道具一式 ※色彩ワークショップ用の画材(スポンジ、色紙など)他
---	--

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	美術表現科	共通授業	2026年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	共通授業⑤ 静物着彩	実習	清水健太郎

授業の到達目標 (目標とする検定)	4月の各コースでの課題や先週までの共通授業で学んだ経験を活かし、 描く力と共に独自の視点や画面構成、色彩的発想力など基本的な造形力をさらに高める。
----------------------	--

授業の内容	期間:グループA: 5/20～5/21 AM・PM 計4コマ グループB: 5/18～5/19 AM・PM 計4コマ ※グループA/B どちらの日程になるかは、こちらで調整いたします。 大型の組みモチーフを対象に、独自の視点を基にした取材を行い、柔軟な構成や色彩的展開を試みた着彩作品を制作する。 ①エスキース 大型モチーフを様々な視点による観察・取材を行い、「奥行」「明暗」「質感」「面と線」などを意識した画面構成をクロッキーやエスキースを通して模索する。この際にモチーフの固有色のみにとらわれずに自由な発想による色彩効果や描画材の扱いなどを積極的に試みる。 ②着彩作品の制作 エスキースを基に、より豊かな絵画空間を目指して着彩作品を完成させる。
-------	---

週	授業計画 及び 学習の内容
5	グループA: 5/20AM 前提講義～エスキース～制作、5/21PM 講評 グループB: 5/18AM 前提講義～エスキース～制作、5/19PM 講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

授業持ち物 ・鉛筆デッサン用具一式 ・色の画材 (水彩絵具用具、アクリル絵具用具、カラーコンテ(コンテクレヨン等)、色鉛筆 クレヨン カラーペンなど 持っているもので良いです)※油彩も可 ・画用紙は学校から支給します	学校で準備する教材など ・モチーフ ・木炭紙サイズの画用紙 ・木炭紙大の画板 ・透明水彩・不透明絵の具など (デモンストレーション用)
---	---

配付資料

渋谷ファッション＆アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	美術表現科	絵画コース	2026年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	絵画Ⅰ-1 油彩導入①	実習	阿部達也

授業の到達目標 (目標とする検定)	油彩画材についての基本的な知識と制作手順を学ぶ。 題材の選び方から構図の重要性を理解する。
----------------------	--

授業の内容	期間:4/13～4/23 AM/PM 計16コマ 画材についての基本的な知識を身につけると共に、絵具の持つ表情の豊かさを探ります。 今後油絵を描いていく上での基本的な知識を得て、油絵を描いていく上での手順を学びます。 静物画課題の取り組み方を理解し、構図、下書き、着色、それぞれの手順や留意点を学びます。 ・絵具の構造や特性について ・画材の準備や扱い方について ・支持体について(キャンバスの張り方) ・制作の準備及び基本的な制作手順の解説 ・パレットへの色置き、混色 ・構図の考え方 ・明暗や質感の表現 以上を講義と実習を通して学びます。
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
1	4/13 前提講義 エスキース制作 この間にキャンバス張り実施
2	制作 4/23講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

授業持ち物 (初日に必要なもの)	学校で準備する教材など
・クロッキー帳(エスキース用) 鉛筆 ねりゴム ・彩色できる画材 (色でエスキースをするため 色鉛筆 水彩絵具 水彩筆など 持っているもので良いです) (授業が始まってから必要なもの) ・油彩用具一式 (授業の中で必要な画材の説明をします 持っていない方は説明を聞いてから購入してください) ※F10号キャンバス(キャンバス布と木枠)は学校から支給します ※キャンバスを張る実習を行います	デモ用の用具 ・キャンバス張り器 金づち ペンチ ・木枠・カットキャンバス(F10号)人数分 ・キャンバス用釘・無地布+柄布 ・果物、本、布、ガラス器、瓶など ※果物+他のモチーフ2～3点を選ぶ ・折り畳みコンテナ(人数分)
配付資料	

渋谷ファッション＆アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	美術表現科	絵画コース	2026年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	絵画 I -2 油彩導入②	実習	清水健太郎

授業の到達目標 (目標とする検定)	油彩画材の特性や扱いについて積極的な制作体験を通して理解を深めるとともに、描く対象を独自の視点で粘り強く追及する観察力を養う。
----------------------	---

授業の内容	期間:5/25～6/4 AM/PM 計16コマ サイズ・形態・材質・色など様々な静物を組み合わせたモチーフを対象に、絵画作品(15号)を制作する。 制作の基本的な流れである構図、下書き、着彩、それぞれの手順の留意点を再確認しながら進めます。画面も少し大きくなりますので、より深い観察力や描写力が必要になります。 前回の授業から引き続き、実際に絵具と触れ合いながら、画材についての基本的な知識を身につけると共に、絵具の持つ表情の豊かさや表現の可能性を探ります。 ・絵具による混色とマチエールの多様性 ・画布への表現の多様性 ・モチーフの形態と構造の理解 ・明暗と色彩の関係 ・奥行や空間性の意識 以上を講義と実習を通して学びます。
-------	---

週	授業計画 及び 学習の内容
6	5/25前提講義 エスキース制作
7	制作 6/4講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

授業持ち物 (初日に必要なもの) ・クロッキー帳(エスキース用) 鉛筆 ねりゴム ・彩色できる画材 (色でエスキースをするため 色鉛筆 水彩絵具 水彩筆など 持っているもので良いです) (授業が始まってから必要なもの) ・油彩用具一式 ・キャンバス F15号	学校で準備する教材など 静物用モチーフ ・無地布＋柄布 ・幾何石膏 ・その他、質感と色の異なるモチーフを数点(ガラス器、瓶、ホーローなど)
配付資料	

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	美術表現科	絵画コース	2026年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	絵画 I -3 風景画	実習	阿部達也

授業の到達目標 (目標とする検定)	日常空間に潜む造形性を見つけ出す視点を養うと共に、目の前に広がる空間を絵画の空間として魅力的に発展させる表現力を養う。
----------------------	---

授業の内容	期間:6/8～6/25 AM/PM 24コマ 校内の空間から任意の場所を選んで風景画を制作する。 基本的な遠近法や画面構成に注意して奥行きのある空間を表現する。 ・パースペクティブ(透視図法)の理解 ・奥行きや前後関係の表現 ・光と影による造形的展開 ・空間のトリミングや構図、要素の構成について 以上を講義と実習をとおして学びます。 (基本的には校内風景だが、近隣の風景を取材しモチーフとするのも可)
-------	---

週	授業計画 及び 学習の内容
8	6/8前提講義 ～エスキース～制作
9	制作
10	制作 6/25講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

授業持ち物 ・クロッキー帳(エスキース用) デッサン用具一式 ・油彩用具一式 ・10～15号キャンバス	学校で準備する教材など
配付資料	

渋谷ファッション＆アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	美術表現科	絵画コース	2026年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	絵画 I -4 動物・植物(静物着彩)	実習	永井俊一

授業の到達目標 (目標とする検定)	動物(鳥などを含む)の骨格や構造を理解し、画面を空間的に構成する。 人体を描く場合と、動物を描く場合の画面全体の組み立て方の違いを学ぶ。
----------------------	---

授業の内容	期間:6/29～7/16 AM/PM 計24コマ 動物剥製は静物のモチーフとしてとても魅力あるものです。制作にあたっては下記の工程で行います ①スケッチ・デッサン この課題では、まずメインとなる動物を良く観察してスケッチやデッサンを行い、体の構造や質感を理解します。 ②エスキース その後に静物モチーフのなかからどこを見せ場にするかを検討するエスキースを複数制作します。 ③本制作 検討修正されたエスキースを基に、動物の自然なプロポーションや質感が表現できるか、物と物との関わり合いが観察・表現できているかを自身に問いながら1枚のタブローに仕上げます。 ※10月の学園祭で展示する候補作品とします
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
11	6/29前提講義 ～6/30、7/1 スケッチ、デッサン、エスキース 7/2制作
12	制作
13	制作 7/16講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

授業持ち物 ・クロッキー帳(エスキース用) デッサン用具一式 ・油彩用具一式 ・キャンバス(F15～20号)	学校で準備する教材など ・モチーフ(剥製含む)
---	--

配付資料

渋谷ファッション＆アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	美術表現科	絵画コース	2026年度	前期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	絵画 I -5 素材と技法研究(自画像)	実習	柏田彩子 永井俊一

授業の到達目標 (目標とする検定)	様々な名画を鑑賞してその素材や技法を調査・研究する。 絵画制作に用いる素材である絵具や支持体などの基本的特性や扱い方を理解する。
----------------------	---

授業の内容	期間:9/7～9/17 AM/PM 16コマ 自画像を通して、絵具(油性・水性)や支持体、その他の素材などを複合的に用いた絵画作品(10～15号)を制作する。 【自画像について】 生涯において何枚もの自画像を描いている作家がいるように、自分の顔はもっとも身近なモチーフです。鏡の中の自分の顔は毎日変わらないように思えますが、その日その時の心情を映し出しているものです。その時期にしか描けない自分と向き合い改めて良く観察して制作しましょう。 【素材について】 絵画に用いる絵具には、油性和水性がありそれぞれ描画特性や扱い方が異なります。これまでの授業で扱った油性画材と異なり、水性系であるアクリル画材は多様なメディウムがあり、短時間で容易に豊かなテクスチャーを作ることができます。そして、適切な用法により油性・水性画材を複合的に扱う事もできます。また、絵画の土台となる支持体についても自身の求める表現性によって、キャンバスと木製パネルなどを選択する必要があります。このように多様な素材を積極的に扱うことでその特性や技法を知り、表現の可能性を広げてみましょう。 ※10月の学園祭で展示する候補作品とします
-------	---

週	授業計画 及び 学習の内容
14	9/7前提講義 エスキース～制作
15	制作 9/17講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

授業持ち物 ・クロッキー帳(エスキース用) デッサン用具一式 ・10～15号キャンバス又は木製パネル ・油彩・アクリル用具一式 ・その他の素材 ※画材や素材については、授業での説明を聞いた後に揃えてもよい	学校で準備する教材など ・鏡(人数分) ・デモ用(アクリル系メディウム各種)
---	--

配付資料

渋谷ファッション & アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	美術表現科	絵画コース	2026年度	後期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	絵画 I -7 取材からの制作	実習	大家泰仁

授業の到達目標 (目標とする検定)	作品制作を行うにあたり、自らが興味の対象(モチーフ)を探し、独自の視点で観察・取材を進めることで、対象やその周辺に潜む「眼に見える以上」の要素を掴み、豊かで実感のある表現へと繋げる。
----------------------	---

授業の内容	期間: 11/2～11/19 AM/PM 計22コマ 日常生活の片隅に潜む造形的に魅力のある物や場所に目を向け、観察や取材を通して絵画作品(20号)を制作する。 【取材】 身の回りの生活空間や学校内、自宅から学校までの通学路などにあらためて注目し、気になる物や絵にすると面白そうな場所の一部分など柔軟な視点により対象を見つけ出し、積極的にクロッキーを通して取材を進めてみましょう。 【エスキース・作品制作】 取材を通して発見した対象を、絵画として魅力あるものにするために、画面構成や構図、色彩や素材などの在り方を積極的にドローイングやエスキースを重ねることで模索し、造形性と実感が備わる絵画作品を制作する。 ※制作の一連の流れを通して修了制作へ向かうステップにします。
-------	---

週	授業計画 及び 学習の内容
21	11/2前提講義 エスキース～制作
22	制作
23	制作 11/19講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

授業持ち物 ・クロッキー帳(エスキース用) デッサン用具一式 ・油彩用具一式 ・キャンバス(F20号)	学校で準備する教材など ・エスキース用紙
配付資料	

渋谷ファッション＆アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	美術表現科	絵画コース	2026年度	後期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	絵画Ⅰ-6 人物と空間	実習	佐藤功

授業の到達目標 (目標とする検定)	人体の構造を理解した上で、その表面にまつた服地の素材感や人物を取り巻く環境との関わりを総合的に描写する事を目標とする。
----------------------	---

授業の内容	期間:9/28～10/15 AM/PM 計22コマ ・人体デッサン(着衣)から構図を考えて、画面を構成する ・人体と衣服の関係性をしっかり把握することが大切です。人体デッサンの課題で学んだポイントを下地にして取り組んでください。 ・人物とその周りの空間を含めた前後関係や奥行きを意識した画面構成となるように、エスキースに充分時間をかけて作品の構想を練ること。 ・油彩画の良い点は思い切った変更が可能ということ。制作を進めながら必要に応じて引き返す勇気を持ってほしい。 ※制作の一連の流れを通して修了制作へ向かうステップにします。 ※10月の学園祭で展示する候補作品とします ※【モデル授業の注意事項(学校より)】 ポーズの始まりと終わりには挨拶をしましょう。原則としてモデルさんには話しかけないこと。写真撮影は禁止です。携帯・スマートフォンはカバンの中にしまっておきましょう。 室温はモデルさんを基準に設定します。
-------	---

週	授業計画 及び 学習の内容
16	9/28前提講義 制作
17	制作
18	制作 10/15講評
19	学園祭準備期間 (出席を取ります)
	10/23-10/24学園祭
20	学園祭撤収および制作研究期間 (出席を取ります)

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

授業持ち物	学校で準備する教材など
・クロッキー帳(エスキース用) デッサン用具一式 ・油彩用具一式 ・キャンバス(F20号)	・モデル(着衣指示) ・背景や小物

配付資料

渋谷ファッション＆アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	美術表現科	絵画コース	2026年度	後期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	絵画Ⅰ-8 絵画制作研究(スケッチブック)	実習	永井俊一

授業の到達目標 (目標とする検定)	修了制作の準備としてこれから制作する作品のテーマを探る。 様々な表現技法を試し制作の幅を広げる。
----------------------	---

授業の内容	期間:11/24～12/3 AM/PM 計14コマ 今回の課題では、年度末にかけて制作する修了制作に向けて作品のテーマや技法の試作をまとめた1冊のスケッチブックを制作します。 課題の中では取材～エスキース～作品制作というプロセスを想定した作業を行います、 絵の描き方に「こうでなければならない」というルールはありません。 体験した技法を基に自分なりの表現を織り交ぜながら自らが描く作品のテーマについて向き合い、描きたい絵の方向を見つけていきます。 ※制作の一連の流れを通して修了制作へ向かうステップにします。
-------	--

週	授業計画 及び 学習の内容
24	11/24前提講義 ～取材・素材収集など
25	スケッチブックの編集 12/3発表会

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

授業持ち物 ・クロッキー帳、スケッチブック、スケッチ用具一式、 ・色の画材 (色鉛筆 水彩絵具 水彩筆など) ・スケッチブック編集用の道具(はさみ、カッター・のり、定規など) ※スケッチブックのサイズなど、支持体については授業内で説明します	学校で準備する教材など ・モチーフ ・デモンストレーション用画材
--	--

配付資料

渋谷ファッション&アート専門学校

開講課程	開講学科	コース	開講年度	学期
文化専門課程	美術表現科	絵画コース	2026年度	後期

講義区分	授業科目名	授業の方法	担当教員
必修	絵画 I -9 修了制作	実習	永井俊一 阿部達也 浅野純人 大家泰仁 佐藤功

授業の到達目標 (目標とする検定)	1年間の学びの集大成として、外部に発表し鑑賞されることを目的とした作品を制作する。
----------------------	---

授業の内容	期間:12/7~2/4AM/PM 計46コマ この一年間の学習の集大成となる作品を制作し修了制作展に出品する。 現時点での各人の制作スキルを活かし、制作テーマを考え集中的に作品を制作する機会が修了制作です。 各人の制作の構想、エスキースを元に先生方と相談しながら進行していきます。 ※作品タイトルや展示の計画も制作と同時に進めます。 ※作品のテーマは自由ですが、以下から選択することも可能です。 ・静物 ・風景(室内も含む) ・人物
-------	---

週	授業計画 及び 学習の内容
26	12/8前提講義・導入 ~エスキース
27	制作
28	1/12計画書提出 制作
29	制作 中間講評(日程は別途お知らせします)
30	制作
31	制作
32	展示準備期間(出席を取ります) 2/12-13修了制作展・講評

成績評価の方法
・課題の提出 ・制作作品 ・講評会の出席状況

教員の実務経験(企業や団体での実務経験)
Webポータル参照

授業持ち物 ・クロッキー帳(エスキース用) デッサン用具一式 ・油彩用具一式 ・キャンバス(30号相当)	学校で準備する教材など ・修了制作計画表用紙 (作品名・展示計画含む)
---	---

配付資料
